

季刊

# 博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM  
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

# 101

夏の特集展

わざわいくるな ふうよこい  
**災厄退散 福運招来**  
—村・家・人を護る呪物—

## 福島県立博物館



夏の特集展Ⅰ

わざわいくるな  
**災厄退散**

ふくよこい  
**福運招来**

—村・家・人を護る呪物—

二〇二一年六月二十五日(土)～七月二十四日(日)



ニンギョウサマ (西会津町屋敷)



カゼブクロサマ (浅川町福貴作)

急遽開催が決定したピンチヒッターの展覧会です。でも中身は当館で開催した「境の神・風の神」(一九八八年四月～六月)と「豊かなる世界へ」(二〇〇〇年一月～三月)という二つの展覧会のエキスが混ざり合ったものなのです。展覧会に合わせて製作してもらった資料が収蔵庫に眠っていて、しばらくぶりに登場してもらうということになりました。もちろんなんの意味もないわけではありません。そもそもかつて人々は天変地異、疫病や不幸の連続になすすべもなくただ呆然と立ち尽くしていただけなのでしょう。いえ、そうではなく、実際の効果は別としても、いろんな仕組みを考え出して自らを守って、幸せな生活がおくれるようにしていたのです。今回の特集展では福島県内外のわら人形を中心としてご紹介します。これらの人形は、あるときは村の外からの災厄を防いでくれ、あるときは村の中から災いとなるものを外に出してくれました。他にも奥会津と中通り北部に分布している奇妙な習俗をご紹介します。上棟式のときに男女の生殖器を模した作りものを奉納するのです。きつと家の繁栄を願った行事なのだと考えられます(新井白石も実物を見て興味をひかれています!)。また、三島町や金山町に伝承されてきた灘流し行事。女性の災いを川に流してくれます。



火伏せ（三島町名入地区）



オカマサマ完成記念写真（二本松市石橋地区）

こうしたさやかだけれども私たちのくらしを安定させる行事の一端をご紹介します。どうか先人の工夫の数々をお楽しみください。

■主な展示資料

ニギヨウサマ（西会津町屋敷）、ニギヨウサマ（西会津町菅本）、ニギヨウ（会津美里町下町）、ニギヨウサマ（会津美里町市野）、ニギヨウサマ（いわき市遠野町東山）、アンバサマ（いわき市岩間町岩下）、オニギヨウサマ（田村市船引町芦沢屋形）、カゼブクロサマ（浅川町福貴作）、ヤクバライニギヨウ（岩手県西和賀町白木野）、ジンジョサマ男女（秋田県大館市山田）、ワラニギヨウ（山形県最上郡舟形町長沢）、オカマサマ（二本松市石橋地区）、火伏せ（三島町名入地区）、火伏せ（南相馬市鹿島町）、流し雛（金山町水沼・大志・小栗山）

■関連行事

展示解説会

日時：七月九日（土）午後三時から

（民俗学講座終了後）特集展会場にて

※常設展示チケットが必要です

ふくしま応援自由演奏会

日時：平成二十三年五月三日(火) 午後二時～三時三〇分  
会場：福島県立博物館エントランス広場

このたびの東日本大震災は、福島県にも甚大な災害をもたらしました。福島県立博物館も地震により展示室に被害があり、一ヶ月間休館してしまいました。また、原発の深刻な事故により、被災地の方々が会津にもたくさん避難され、不自由な生活を送られています。



演奏風景

被災者そして会津のみなさんに元気になってもらうために、博物館として何かできないかと考えていた矢先、細川佳那枝さんという女性の方が博物館に「ふくしま応援自由演奏会」を博物館で開催させてもらえないかという依頼がありました。細川さんは喜多方市在住で、県内外で作曲や演奏活動をされている方です。「自由演奏会」というのは、年齢・性別・演奏レベルなどの枠を超え、音楽と楽器が好きな方なら誰でも自由に演奏

に参加できるコンサートです。自由演奏会の発起人は、「上野の森ブラス」チューバ奏者の杉山淳さん。一九九七年から始められ、全国各地で催されてきました。このコンサートを会津で開催することにより、会



演奏会に詰めかけた聴衆

津からふくしま全体に元気を発信したいと言う趣旨です。博物館としてもこの企画に賛同し、ふくしま応援自由演奏会実行委員会と博物館の共催でこの催しを実施することとなりました。会場は、晴天なら博物館エントランス前の広場で、雨なら講堂で行うこととし、博物館としても積極的に広報を行いました。当初は募集してもそれほど集まらないのではないかと思っていました。開催日近くなり、応募者は一〇〇名を超え、講堂では狭すぎて無理。雨が降ったらどうしようかと心配になりました。

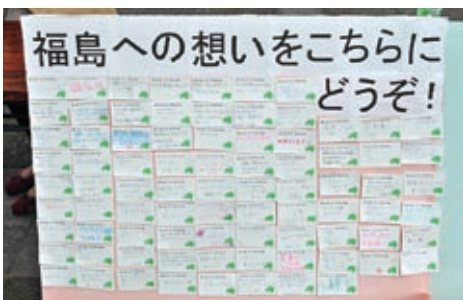
当日五月三日の朝、快晴でした。よかったと胸をなでおろしました。結局二〇〇名もの参加者が集まり、中には震災の被災地である宮城県女川町や多賀城市からかけつけて来られた方がおられました。午前中はリハーサル。各パート別のブラスバンド用の楽譜をその場で渡されて、杉山淳さんの指導のもと練習を行いました。

本番は午後二時からでした。練習を聴いた感じで

は、正直言って果たして大丈夫かなと思っていたのですが、本番の演奏は息があつた素晴らしいもので、自分たちも元気になってふくしまを応援しようという熱意がひしひしと伝わってきました。演奏した曲は、「上を向いて歩こう」、「ありがとう」、「宝島」など馴染みの曲が多く、指揮台に立った杉山さんのユーモアに満ちたトークもあり、聴く者を飽きさせないものでした。東日本大震災復興応援のためにフィリップ・スパーク氏より贈られた「陽はまた昇る」という曲も披露されました。博物館の近くで休日を過ごしていた人など四〇〇名を超える人々が会場に集まり演奏に聴き入っていました。最後はふくしまに向けてのエールを演奏者と聴衆で大合唱してコンサートの幕を閉じました。

東日本を襲った未曾有の災害。このような時に地域の博物館に何ができるか。まずは一日も早い博物館の再開、被災した文化財など貴重な資料の救出、防災に関する研究と展示など多々あると思います。が、今回のような地元を元気づける文化的な催しもそのひとつだと思います。

(学芸員 竹谷陽二郎)



演奏参加者からの福島への応援メッセージ

Q…現在開催されているテーマ展「ふるさとの考古資料2『会津美里町』遺跡探訪」の見どころを紹介してください。

A…テーマ展「ふるさとの考古資料」は、昨年からシリーズで開催している展覧会で、一回目は、会津若松市内の遺跡を紹介しました。今回は、その第二弾として、会津美里町教育委員会の皆さんにご指導・ご協力をいただき、会津美里町にある遺跡や史跡を紹介するという内容で展覧会を開催することとなりました。

我々の身近には、先人たちが築き、これまで大

## ふるさとの考古資料2

### 【会津美里町】遺跡探訪

切に伝えられてきた多くの文化財がありますが、特別なことがない限り、それらを目にする機会は少ないと思います。この展覧会は、考古資料などをおして、会津美里町を舞台に繰り広げられてきたふるさとの歴史を振



展示室風景

り返ってみる絶好の機会になるはずですよ。見どころはたくさんありますが、そのなかからいくつか紹介しましょう。

まずは、油田遺跡にご案内します。この遺跡は高田市街地の西側にあり、圃場整備事業に先立って

## Q&A

田中 敏

回答者  
考古担当

発掘調査されました。その結果、断続的ではありませんが、縄文時代から古墳時代まで実に五千年以上にあたる人々の営みが確認されました。展示では、子供の遺体を埋葬したと考えられる縄文時代のお墓、管玉や勾玉などを副葬した弥生時代のお墓、鍛冶を行っていた古墳時代のムラなどについて紹介しています。それぞれの時代で人々が使っていた道具にどのような違いがあるのかを見るのもおもしろいかもかもしれません。

次に紹介するのは町のシンボル、白鳳山にある向羽黒山城跡です。この城は、十六世紀会津の地



弥生時代のお墓（油田遺跡）

を治めていた蘆名盛氏が築いたものです。長年にわたる調査により、その全体像が把握されつつあり、今回はそのデータをもとに製作した立体模型を展示室の中央ステージに展示しました。この模型を見ることによって、山のどの部分にどの位の広さをもった曲輪があったのかなど、この山を城として立体的に把握することができます。因みにこの模型は、当館の学芸員が指にケガをしながら築き上げた、まさに血と汗の結晶です。

最後に紹介するのは、会津本郷焼です。お馴染みの鯨鉢や徳利に加え、今回は一風変わった器も展示しています。ぜひご覧になって、これは何に使った器なのか頭をひねってみてください。

Q…今回も案内役のキャラクターがいると聞きましたか？

A…はい。今回の案内役は会津美里町のニューキャラクター「あいづじげん」です。地元生まれと伝えられている江戸時代の僧、天海（諡号・慈眼大師）がモデルです。彼が独特の語り口で、展示の見どころなどをご案内しますので、ぜひ会いに来てください。



向羽黒山城跡の遠景

## 会津慶長地震の被害と復興

高橋 充 歴史担当

今からちょうど四〇〇年前、慶長一六（一六一一）年八月二一日（旧暦）に、会津の地を揺るがす大地震が発生しました。この地震の被害状況については、後世の編纂物によって語られることが多いようですが、ここでは、できるだけ同時代の史料から、確実な情報を拾って、みてゆこうと思います。

まず、建造物への被害として、若松城の「城郭石壁」が崩れ、城下の「町屋」が倒れ、柳津虚空藏堂（現柳津町）など「堂舎仏閣」が破損したことが、遠く離れたところの武士や公家の日記に、伝聞として書きとめられています（「駿府記」「慶長日件録」「言緒卿記」）。また地震の翌月に、たまたま会津を訪れたビスカイノという外国人の報告には、若松城と二万戸以上の家屋が破損し、修繕中であるとも書かれています（「金銀島探検報告」）。以上の日記・報告は『大日本史料』第十二編之八に収録。

会津領内では、東青津村（現会津坂下町）と胄中村（現柳津町）で、村の耕地に被害が出たために、肝煎・百姓らが訴え出て、年貢の減免が認められたことを示す文書が残されました（肝煎生江勇八郎家文書・名主弥総右衛門家文書 いずれも「新編会津風土記」所収）。以上の文書は『会津若松史』8に収録）。当時は、蒲生秀行の治世で、家臣たちは村から一定の年貢の配分を通常受けていましたが、震災

の大きさを目の当たりにして、特別措置が講じられたと考えられます。

とくに東青津村の文書に「田島悉く海成にとそんし（損じ）」と書かれているように、この村の耕地は水没してしまいました。東青津村を含む会津盆地の北西部では、地震の影響で、日橋川・阿賀川の河道が塞がり、湖水のように水が溜まる二次災害が起きていたのです。

それでは、このような災害からの復旧・復興は、どのように進んだのでしょうか。

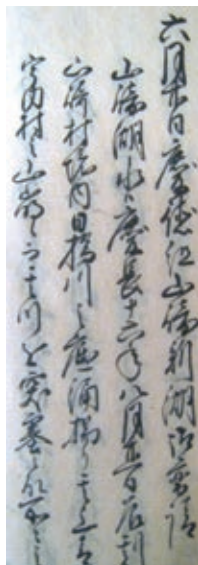


現在の山崎付近の川の様子  
(2009年10月 会津慶長地震プロジェクト現地観察会にて撮影)

建造物については、再建の際につくられる棟札が手がかりになります。新宮熊野（現喜多方市）の社殿と、出ヶ原観音堂および野沢観音堂（いずれも現西会津町）にあった棟札から慶長一七〜一九（一六一二〜四）年の間に、これらの建物の再建が行われたことがわかります（「新宮雑葉記」「新編会津風土記」所収）。また元和二〜三（一六一六〜七）年に、塔寺観音堂（現会津坂下町）が再建されたことは、「塔寺八幡宮長帳」に記されています。寺社の建造物は、おむね地震発生から五〜六年のうちに再建

されたと考えられます。

これに対して、冠水した耕地などの復旧については、三十数年を経過した後の会津藩の記録に、以下のように書かれています（「家世実紀」正保二年六月廿日条）。まず地震直後に、蒲生家の重臣の指揮のもとで、溜まった水の水抜き工事が行われますが、「下湿之地」には水がたまり、「山崎湖水」と呼ばれる状態が続きました。加藤嘉明入封の翌年（寛永五年＝一六二八）にも工事が行われましたが、その後の洪水で、また一部が埋まりました。正保二（一六四五）年には、藩主保科正之の命令を受けて、徹底的な水抜き工事が実施されています。この記事の内容の詳細な検証は今後必要ですが、生産基盤である耕地や村の復旧・復興には、より長い歳月と労力が費やされたことは、まちがいないでしょう。



「家世実紀」  
(部分 当館蔵)

保科正之は、ちょうど会津慶長地震が起きた年に生まれています。三三歳で会津藩主になった時、山崎湖水の問題に直面し、この地震の影響の大きさを知ることになったにちがいません。

今秋には、企画展「保科正之の時代」の関連事業として、会津慶長地震をテーマにしたシンポジウムを開催します。どうぞ御期待ください。

「喜多方一〇〇年カエル館コレクション展  
―明治から平成へ、受け継がれるカエルグッズ―」

会期：8月13日（土）～9月19日（月）  
会場：福島県立博物館 企画展示室  
観覧料：常設展観覧料でご覧いただけます。  
一般・大学生260円／小中高生・無料

明治から平成まで三代にわたって集め続けたカエルグッズコレクションを有する喜多方市の100年カエル館。会津に、福島県に活気を取り戻すお役にしたいという申し出を受け実現するのがこの展覧会です。おもわず微笑んでしまうかわいらしいカエルが大集合する展覧会です。カエルたちからエネルギーをもらっちゃいましょう!!



小沢一蛙コレクションから



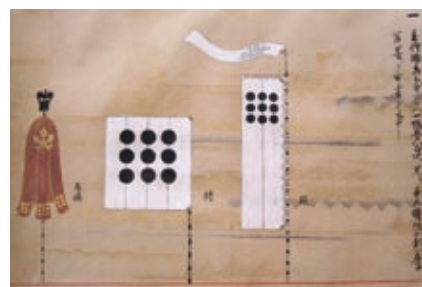
小沢一蛙コレクションから



ドイツ製の陶製のカエル

## 生誕四〇〇年記念「保科正之の時代」

兄である三代將軍徳川家光から後事を託され、甥にあたる徳川家綱を補佐した保科正之。わずか一歳歳の幼將軍を守り立て、存在感を示しました。この時代、幕府は武断政治から文治政治へと大きく舵を切りましたが、正之はその立役者の一人となりました。一方、会津藩三三万石の藩主としても領内整備に力を入れ、他藩の模範たるべく様々な施策を行います。



保科氏系図 (部分)、個人蔵

平成二三年は保科正之生誕四〇〇年の節目にあたります。これを機に、「大老」や「半天下」と呼ばれた正之の一生を見つめ直し、正之が遺したもののついて考えます。また、親交の深かった大名家に残された諸資料を紹介し、正之が活躍した時代にせまります。

## 開催概要

- 会期 平成三年一〇月八日(土)～一二月二七日(日)
- 休館日 月曜日(ただし一〇月一〇日は開館、一〇月一日(火)、一二月四日(木))
- 会場 福島県立博物館 企画展示室
- 観覧料 一般・大学生五〇〇(四〇〇)円、高校生三〇〇(二四〇)円、小・中学生二〇〇(一六〇)円
- その他 ※( )内は二〇名以上の団体料金

会期中に一部展示替を行います  
前期一〇月八日～一〇月三〇日  
後期一二月一日～一二月二七日



特集展

※常設展料金までご覧になれます

夏の特集展Ⅰ  
「災厄退散(わざわいくるな)福運招来(ふくよこい)」  
―村・家・人を護る呪物―  
会期 7月24日(日)まで

◎夏の特集展Ⅰ関連行事  
展示解説会  
日時 7月9日(土)15時00分～  
会場 福島県立博物館収蔵資料展示室  
講師 学芸員 榎 陽介

夏の特集展Ⅱ  
「喜多方100年カエル館コレクション展」  
―明治から平成へ、受け継がれるカエルグッズ―  
会期 8月13日(土)～9月19日(月・祝)

◎夏の特集展Ⅱ関連行事  
ギャラリートーク  
日時 9月18日(日)13時30分～  
会場 福島県立博物館企画展示室  
講師 喜多方100年カエル館 学芸員 高山ビッキさん

テーマ展

※常設展料金までご覧になれます

「大和川酒造コレクション展Ⅱ」  
会期 7月18日(月)・祝まで

「ふるさとの考古資料2―【天津美里町】遺跡探訪―」  
会期 平成24年5月13日(日)まで

「けんばくの宝2011」  
会期 8月13日(土)～9月25日(日)

◎テーマ展関連行事  
「けんばくの宝2011」ギャラリートーク  
日時 9月11日(日)13時30分～14時30分  
会場 福島県立博物館部門展示室歴史美術  
解説 学芸員 川延安直 小林めぐみ

ポイント展

※常設展料金までご覧になれます

「風船爆弾関係資料」  
会期 7月9日(土)～9月2日(金)

「落下傘でつくった着物」

会期 7月31日(日)～8月31日(水)

「磐梯山をシノパークにしよう」  
会期 8月20日(土)～9月4日(日)

「はじまりの考古学 注口土器のはじまり」  
会期 8月30日(火)～平成24年3月18日(日)

「はじまりの考古学 米作りと石の道具」  
会期 8月30日(火)～平成24年3月18日(日)

ミュージアムイベント

「けんばく大茶会」  
日時 7月16日(土)10時～12時、13時～15時  
会場 福島県立博物館エントランスホール  
講師 裏千家淡交会津支部学校茶道連絡協議会のみなさん

「野外映画会」  
日時 8月20日(土)19時～21時  
場所 福島県立博物館正面入り口前広場(雨天の場合は講堂)

※「ナイトミュージアム for KIDS」  
日時 9月17日(土)17時～19時  
場所 福島県立博物館展示室内

木曜の広場

「遠野物語」を読む16  
日時 7月21日(木)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館講堂  
講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む17  
日時 8月18日(木)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館講堂  
講師 館長 赤坂憲雄

「遠野物語」を読む18  
日時 9月15日(木)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館講堂  
講師 館長 赤坂憲雄

講演・講座

※は要申込

◎民俗学講座

企画展図録で学ぶ民俗学2「豊かなる世界へ」  
日時 7月9日(土)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館視聴覚室

講師 学芸員 榎 陽介  
企画展図録で学ぶ民俗学3「英雄たちの系譜」  
日時 9月17日(土)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館視聴覚室  
講師 学芸員 二瓶浩伸

◎考古学講座  
※「土器作り1」  
日時 7月23日(土)10時～15時  
会場 福島県立博物館実習室  
講師 学芸員 大竹正浩ほか

※「土器作り2」  
日時 7月24日(日)10時～15時  
会場 福島県立博物館実習室  
講師 学芸員 大竹正浩ほか

「はじまりの考古学1 縄文時代研究のはじまり」  
―大森貝塚・日本人種論・ミネルヴァ論―  
日時 9月10日(土)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館講堂  
講師 学芸員 藤原紀敏

※「土器の野焼き」  
日時 9月25日(日)10時～15時  
会場 野外  
講師 学芸員 二瓶浩伸ほか

◎実技講座  
※「マタタビ蔓の蕎麦ざる作り1」  
日時 7月2日(土)13時～16時  
会場 福島県立博物館実習室  
講師 技術伝承者 菅家藤一さんほか

※「マタタビ蔓の蕎麦ざる作り2」  
日時 7月3日(日)13時～16時  
会場 福島県立博物館実習室  
講師 技術伝承者 菅家藤一さんほか

実演

「昔語り2」  
日時 9月4日(日)13時30分～15時  
会場 福島県立博物館体験学習室  
講師 語り部 山田登志美さん

会津・漆の芸術祭関連行事

会津・漆の芸術祭2011シンポジウム  
「ふくしまで語るFUKUSHIMA」  
日時 7月2日(土)13時30分～16時  
会場 福島県立博物館講堂

パネリスト 美術家 神宮宗一(有馬大学芸術学部デザイン表現科准教授) やまみわえ  
美術家 安室 多摩(美術大学美術学部デザイン教授) 津登え  
美術家・東北芸術工科大学准教授 三瀬夏之介さん

共催事業

「全国高等学校総合文化祭」  
会期 8月3日(水)～8月7日(日)

指導者向け研修講座

※「博物館利用指導者研修会」  
日時 8月19日(金)9時30分～16時  
場所 福島県立博物館実習室ほか  
講師 学芸員 二瓶浩伸ほか

やさしい展示解説

\* 展示解説員による常設展総合展示の案内です。  
\* 毎週土曜日、日曜日の10時30分と14時から30分ほど行います。  
\* 要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。  
\* その他、行事等の詳細に関しましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

8月21日(日)県民の日・9月19日(月)敬老の日

7月～9月の休館日

7月 4日(月)・11日(月)・19日(火)・25日(月)  
8月 1日(月)・8日(月)・22日(月)・29日(月)  
9月 5日(月)・12日(月)・20日(火)・26日(月)